

ＪＡおおいたの自己改革の取り組み

令和元年6月時点作成

農業者の所得増大・農業生産の拡大

- ① 米の買取り
- ② 米の出荷奨励
- ③ 安心安全の農産物
- ④ 集荷場の整備
- ⑤ 担い手の育成
- ⑥ 農畜産物のブランド化
- ⑦ 契約販売と輸出で生産拡大
- ⑧ 生産コストの引下げ①
- ⑨ 生産コストの引下げ②
- ⑩ 肥料満車直行対策
- ⑪ 担い手に対するコスト低減支援対策
- ⑫ 生産コストの引下げ(農機具コスト)

地域の活性化

- ⑬ 組合員訪問活動・広報活動
- ⑭ 災害等の支援活動
- ⑮ 未来へつなぐ食と農

「米の買取り」

取組の概要

- ・早期精算に向けて一層取り組み、生産者の安定経営を図る。
- ・米全量買取
- ・米集荷目標650,000袋

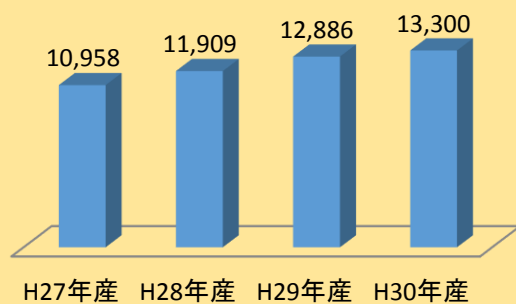
具体的な取組の内容

- ・全量買取に向けた協議
- ・役職員による個別訪問による集荷推進活動
- ・集荷拡大に向けた研修会、推進大会の開催 米の米の

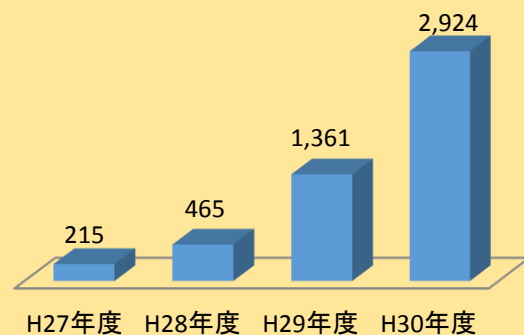


取組の成果

米価格
(普通期ヒノ1等、60kg/税込) 単位：円



買取米 販売高 単位：百万円



組合員の声・期待

- ・精算が早くなったので、農業計画が立てやすい。
- ・他業者に負けない価格提示を希望する。

「米の出荷奨励」

取組の概要

- ・出荷規模に応じた奨励金により、「農業者の所得増大」につなげる。

具体的な取組の内容

平成30年産米の出荷袋数に応じて奨励金の支払う。

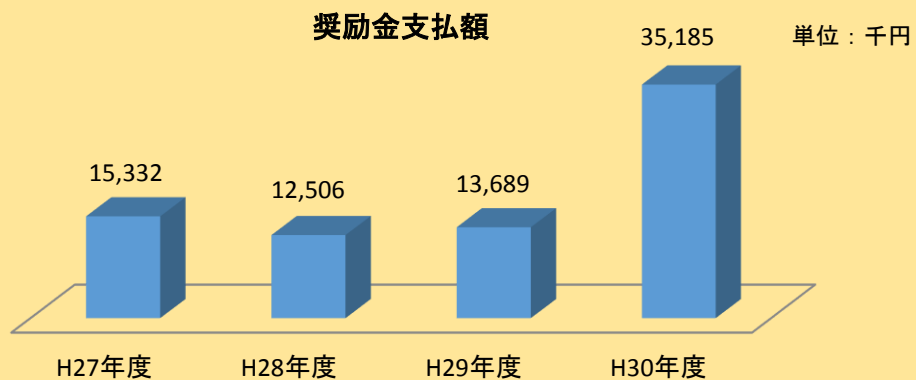
出荷奨励金（H30年度）		
1～199袋	1袋あたり	50円
200～499袋	1袋あたり	100円
500～999袋	1袋あたり	150円
1000袋～	1袋あたり	200円

フレコン出荷 30kg換算し上記基準によりお支払いします。
※新規需要米、備蓄米は除きます。

取組の成果

※平成30年度より、支出基準を見直し小口の出荷の生産者も対象。

※平成29年度以前は200袋以上の出荷に対しての支払い



組合員の声・期待

- ・平成30年産米より小口出荷者も対象となったことで1袋あたりの単価が上がり、喜ばれている。

「安全安心の農産物」

取組の概要

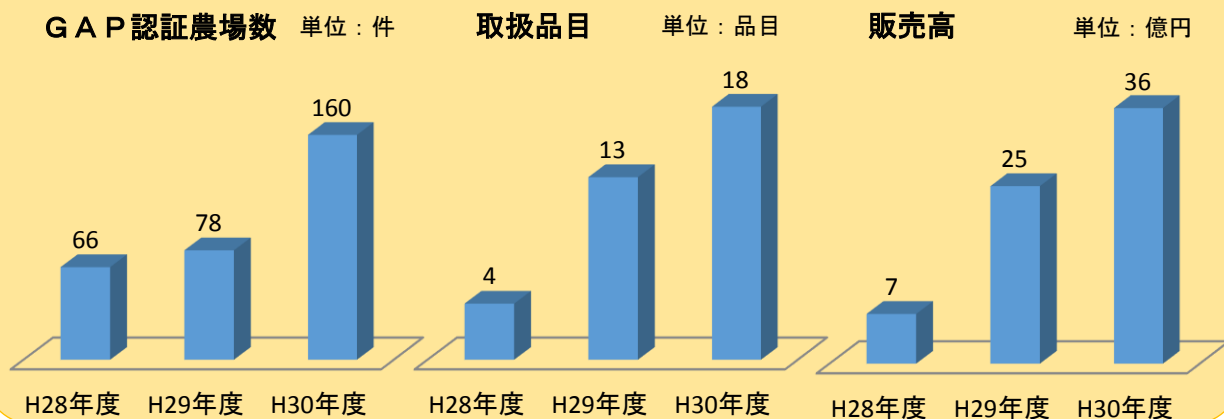
- ・栽培暦に基づく適期防除や栽培管理を徹底し農薬使用量の削減に取り組む。
- ・生産履歴記帳の徹底とシステムを活用したチェック機能の強化を図る。
- ・農業生産工程管理（GAP）の普及を関係機関と連携してすすめる。

具体的な取組の内容

« J A おおいた G A P 研究会 »

- ・GAP基準点の変更に伴い、マニュアルの改定対応と生産者への周知
- ・JGAP団体認証の審査に向けた支援活動
- ・平成28年度、日本GAP協会からその取り組みが認められ「GAP普及大賞2016」を受賞
- ・平成29年度、研究会に「白ねぎ」・「七草」・「大葉」の3部会が加入し、団体認証を取得
農林水産省主催の「未来につながる持続可能な農業推進コンクール GAP部門」生産局長賞を受賞
- ・平成30年度、研究会に「日田梨」・「トマト」の2部会が加入、品目として「カボス」・「にんにく」を追加し、団体認証を取得
- ・認証農場数は、160農場、農産物取扱施設も12施設に拡大

取組の成果



組合員の声・期待

- ・J A が J G A P 団体認証取得にあたり、研究会の団体事務局を引き受けていただき、ありがたい。
- ・引き続き、認証農場および品目の拡大にご尽力をお願いしたい。

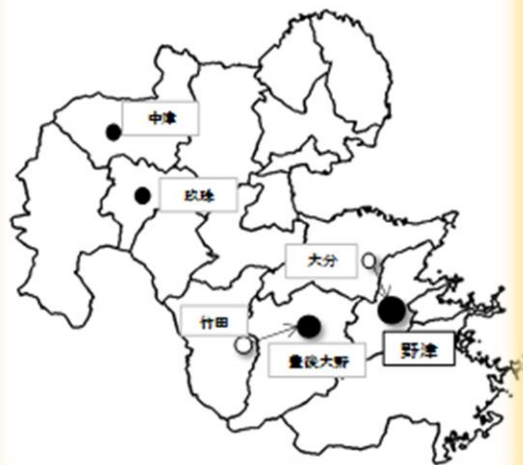
「集荷場の整備」

取組の概要

- ・大分夏秋ピーマンについて、県内6カ所ある選果場の老朽化に伴う、広域的な選果場の整備。

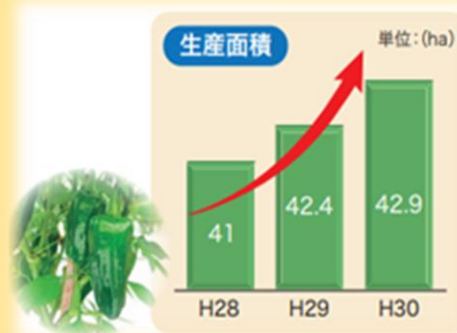
具体的な取組の内容

- ・広域選果場の整備（豊後大野・野津2か所）
※大分ピーマンの約95%をその2か所に集約、一元分荷体制を開始
- ・安全安心な商品供給の仕組み
（トレーサビリティシステム導入）
- ・生産者の選別の省力化
- ・品質統一
（規格の統一ならびに目揃えの徹底）
- ・生産から販売までの窓口一元化体制整備
（JA・全農・県の担当で構成される「広域販売指導チーム」を設置）



取組の成果

- ・選果場を集約することにより、流通の効率化が図られ、規格のばらつき等が改善された。
- ・トレーサビリティの導入により、クレーム等迅速な対応が可能になった。
- ・生産者の選別の省力化により、規模拡大へとつながった。
- ・一元分荷体制に伴い、新たな契約販売など、より戦略的な販売が行えるようになった。



組合員の声・期待

- ・広域選果場が整備され、一元販売が始まったことで、より品質の良い安全安心なピーマンを出荷して、いこうという生産者の意識が高まった。また、収穫後の選別作業が一部省力化されたことで、規模拡大や圃場の管理徹底につながった点も産地として大きな成果と考えている。

「担い手の育成」

取組の概要

- ・ＪＡ就農学校を設置して、新規就農者研修制度拡充に取り組みます。
- ・主力品目に青年部組織を設置し、後継者や新規就農者の育成を図ります。

具体的な取組の内容

- ・県域・地域に専門指導員を配置し指導体制の整備
- ・主力品目に青年部組織を設置し、後継者や新規就農者の育成

【平成29年度】

大分ピーマン学校設置

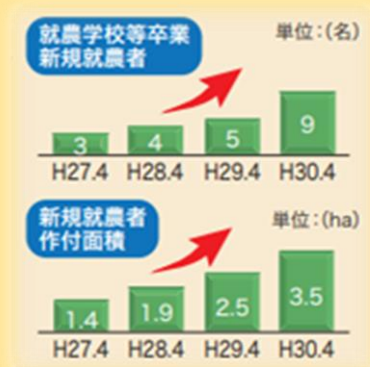
【平成30年度】

広域白ねぎ就農学校設置

取組の成果

【味ーねぎ】

- ・「大分トレーニングファーム」 4組5名が卒業後、計2.3ha就農。



【その他】

- ・「杵築いちご学校」 5組8名が卒業後、計1ha作付。
- ・「国東花学校」 2組3名が卒業後、計2.3a作付。

組合員の声・期待

- ・研修で培った栽培技術等をしっかりと生産に活かし、経営の安定に努め、期待に応えていきたい。
- ・生産農家が高齢化の中、担い手の確保が産地の維持・拡大につながる。新規就農者を計画的に育成・確保するための協力、支援を引き続きお願いしたい。

「農畜産物のブランド化」

取組の概要

- ・関係機関一体による産地の活性化
- ・徹底した品質管理によるブランドを確立

具体的な取組の内容



野津共同貯蔵庫

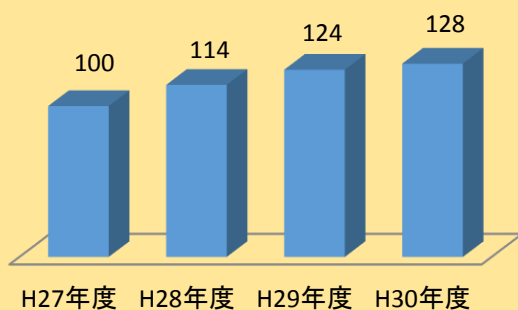
- ・「高糖度かんしょ推進協議会」（全関係機関（JA・全農・県・市）で構成）を設立。
- ・産地拡大への取り組みとして、共同貯蔵庫・選果場の整備
- ・品質の高位平準化策としてウイルスフリー当代苗の導入
- ・各行事への参加や積極的なマスコミ対応を行い「甘太くん」のP R活動

取組の成果

○販売単価 132円/kg（H19）⇒ 232円/kg（H30）

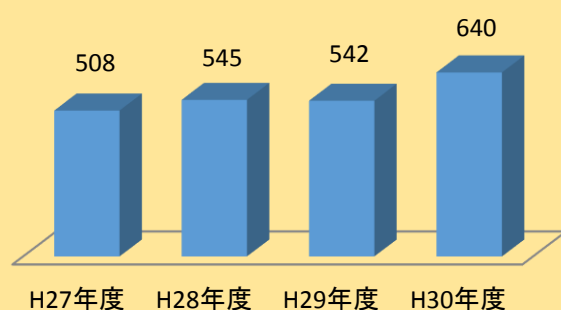
作付面積

単位：h a



販売高

単位：百万円



組合員の声・期待

・「甘太くん」は関係機関と共に生産者も一緒になってブランド化へ取り組んだことが、短期間での成功へとつながったと考える。市場からも消費者からも求められる安全安心な商品を、今後も自信をもって作っていきたい。

「契約販売と輸出で生産拡大」

取組の概要

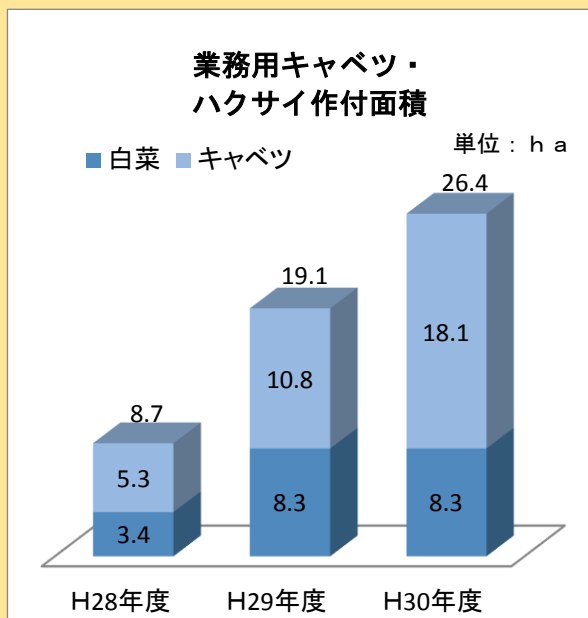
- ・生産量の確保及び生産者所得向上及び安定化
- ・海外輸出による新たな販路の開拓

具体的な取組の内容

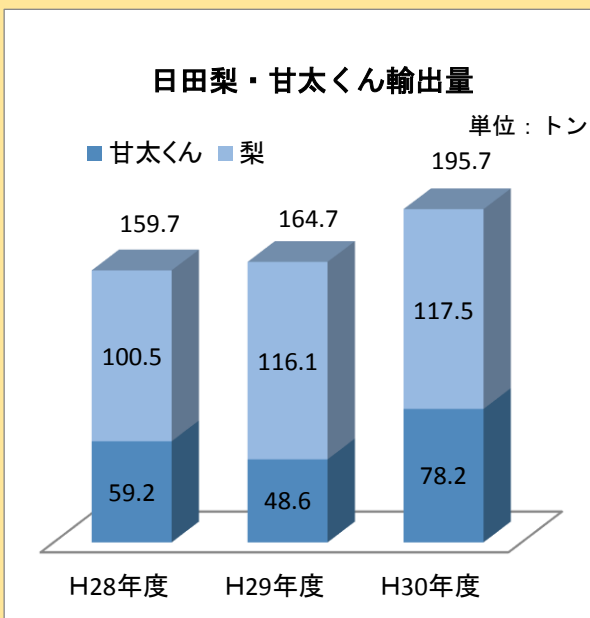
- ・加工用・業務用野菜の契約栽培拡大（キャベツ、白菜等）
- ・鉄コンテナでのバラ出荷による出荷資材の削減、労働力の削減
- ・海外への販路開拓に向け、商談会やセールス活動に参加

取組の成果

契約販売



輸出版売



組合員の声・期待

- ・J Aが流通面で出荷契約先を広げてくれたのが大きい、担当者に感謝している。

「生産コストの引下げ①」

取組の概要

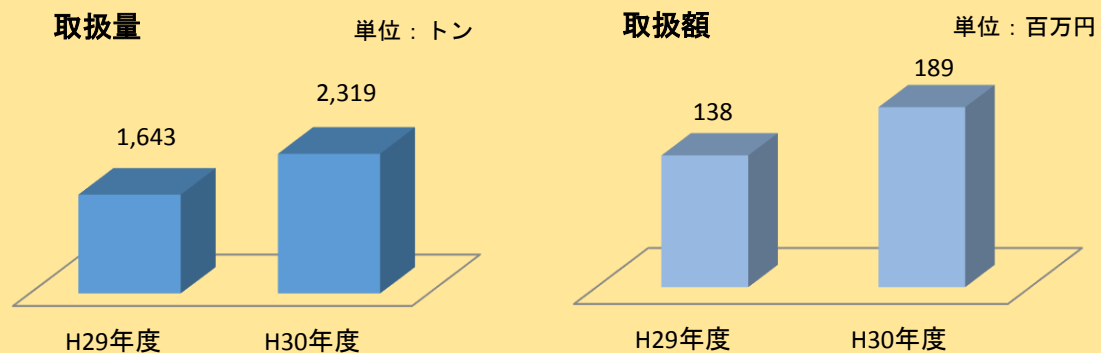
- ・生産、出荷資材等の規格統一
- ・一元仕入れによるコスト削減
- ・低コスト資材の普及

具体的な取組の内容



- ・春肥銘柄集約（水稻用元肥・追肥）
- ・秋肥銘柄集約（麦用元肥・追肥）
- ・農産物出荷用ダンボールの規格統一

取組の成果



組合員の声・期待

- ・従来使用していた肥料から、銘柄集約肥料へ切り替えたことで生産コスト低減につながった。
- ・今後も、銘柄集約肥料を増やして欲しい。
- ・水稻一発肥料の銘柄集約を行って欲しい。

「生産コストの引下げ②」

取組の概要

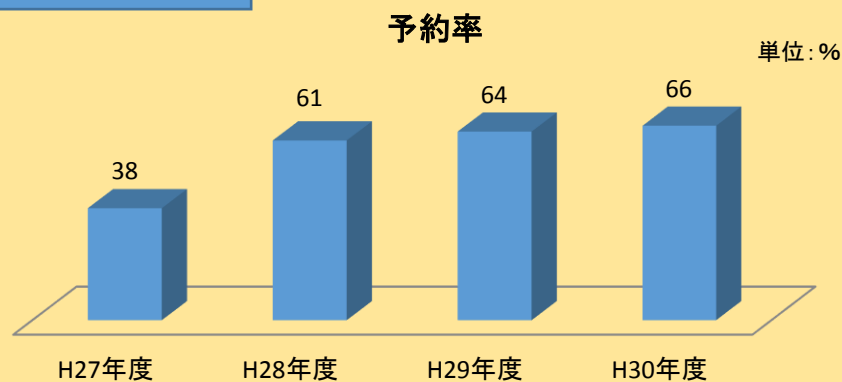
- ・予約注文を早期に実施することにより、事前一括仕入れによる価格の有利性を発揮し、生産コスト低減につながる。

具体的な取組の内容

- ・予約注文書（主に水稻関係）による肥料・農薬の大型規格商品の提案。
- ・水稻用肥料 8 銘柄、水稻用農薬（箱処理剤 3 品目、除草剤 6 品目）を推奨品目とし生産資材のコスト低減
- ・水稻用大型規格除草剤の直送、生産資材の予約注文書充実



取組の成果



組合員の声・期待

- ・早期予約注文をすることで、価格が安くなり生産コスト低減につながった。

「肥料満車直行対策」

取組の概要

・「肥料満車直行対策」により、肥料を購入する際、担い手農家等へ工場等から直接配送し配送コストを還元し、生産コスト低減につなげる。

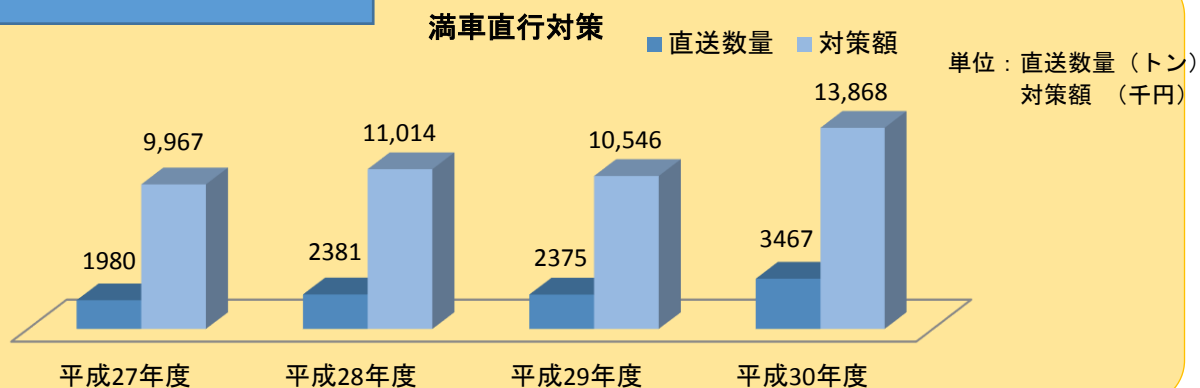
具体的な取組の内容



※但し、条件がありますので
ご注意ください。

条件① 満車直行対象肥料のみです。(銘柄集約肥料は10t単位のみ
の対応となります)
条件② 一カ所での引取が出来て、3品目以内まで積み合わせ可能です。
条件③ 機械荷役が可能なフォークリフト及びパレットが必要です。

取組の成果



組合員の声・期待

- ・満車直行を利用することで、生産コストの低減につながった。
- ・こういったコスト低減につながる取り組みは、積極的にPRしてほしい。

「担い手に対するコスト低減支援対策」

取組の概要

・「担い手に対するコスト低減支援対策」により、一定の条件の下、肥料農薬の購入額が50万円以上の農家を対象に対象金額の2～5%を還元し、生産コスト低減につなげる。

具体的な取組の内容

肥料農薬 担い手対策奨励金

肥料農薬の年間購入額に応じて奨励金をお支払いします。

50万円以上100万円未満	2%
100万円以上300万円未満	3%
300万円以上500万円未満	4%
500万円以上	5%

(但し、特別価格対策を行っている商品については除きます)

例 肥料農薬を年間 500 万円
利用されている方

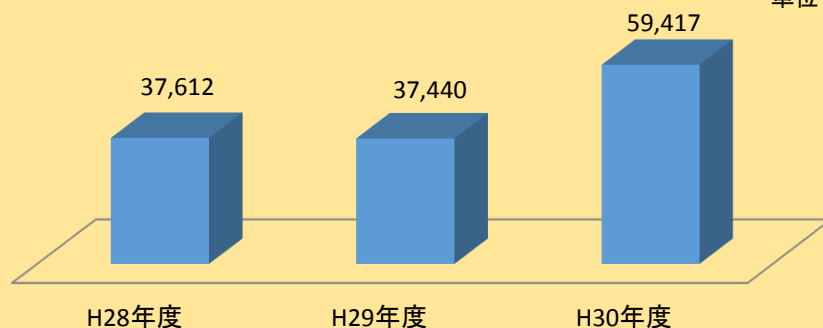
$500\text{万円} \times 5\% = 25\text{万円}$

25万円

取組の成果

担い手対策奨励金

単位：千円



組合員の声・期待

- ・肥料農薬担い手対策奨励金として戻ってくるので生産コスト低減につながった。
- ・一部他の商店から肥料・農薬等を購入していたが、JAからすべて購入したら、奨励金によって肥料・農薬のコストが下がった。

「生産コストの引下げ(農機具コスト)」

取組の概要

- ・JA独自型式農機の提案・普及拡大による導入コストの低減。
- ・農業機械レンタルにより、新規に園芸品目栽培等に取り組む担い手・集落営農法人等の生産コスト（農機具費のコスト）を低減。

具体的な取組の内容

【JA独自型式農機の普及拡大】



【農機レンタル等】

- ・農機レンタルの取り扱い（野菜移植機、畝立マルチ施肥付トラクタ、畝立マルチ管理機、K S A S 対応（情報通信技術を活用した）トラクタ（園芸用のみ）、堆肥散布機、かんしょ移植機）・省力化・低コスト化の取り組みとして密苗・密播栽培の実証試験の実施

取組の成果

【JA独自型式トラクタ普及】

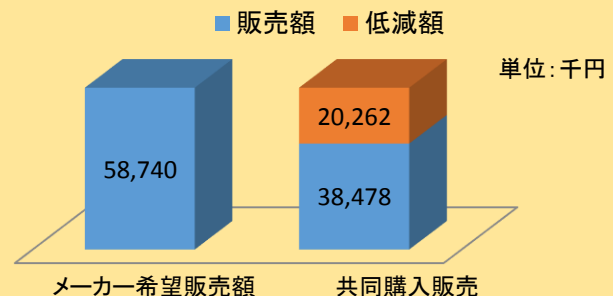
平成30年度：納品台数11台

【農機レンタル】

平成29年度：実利用者数13団体

平成30年度：実利用者数32団体

共同購入による低減額（H30年11台累計）



組合員の声・期待

- ・60馬力がこの価格なら購入を検討したい。
- ・JAがこのような取り組みを行う事で、農家は好条件で機械導入できるようになった。
- ・もう少し小さい馬力帯が欲しいので今後、取り組みを検討して欲しい。
- ・女性や農業新規参入者が使用することを想定した場合ミッションよりオートマも検討して欲しい。

「組合員訪問活動・広報活動」

取組の概要

- ・訪問活動により、組合員、利用者の意見を事業に反映させる。
- ・消費者や利用者に県内農作物の消費拡大に向けた情報発信をする。
- ・農業振興や組合員の取り組み等を県内外に情報発信する。

具体的な取組の内容

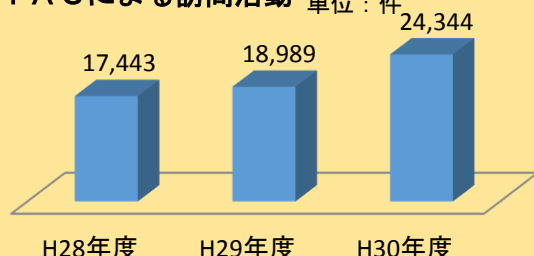
- ・役員による組合員等訪問活動の実施
- ・広報担当部署の設置（平成30年度）
- ・日本農業新聞への出稿強化
- ・ホームページのリニューアル
- ・地元新聞社やテレビ・ラジオ等外部媒体へのニュースリリースを通じ、県産農畜産物のPR
- ・「支店だより」の発行による、地域に根ざした情報発信の展開



取組の成果

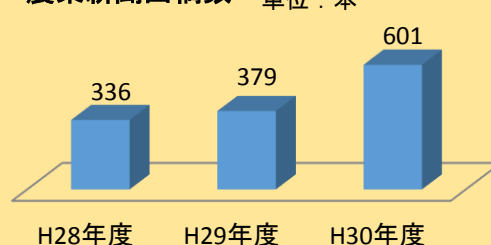
TACによる訪問活動

単位：件



農業新聞出稿数

単位：本



組合員の声・期待

- ・購買品の価格は下がってきているので、値下げする品目を拡大してほしい。
- ・営農指導員の育成を強化し、資質・能力の向上と増員に取り組んでほしい。
- ・出向く姿勢が目に見えてきて、JAも変わってきたなと感じる。
- ・自己改革を継続してすすめてほしい。

「災害等の支援活動」

取組の概要

- ・災害支援等に係る支援への備えを目的に3億円の積立を行っている。

具体的な取組の内容

災害復旧等人的支援活動



九州北部豪雨による災害復旧支援
(H29. 7月 日田市)

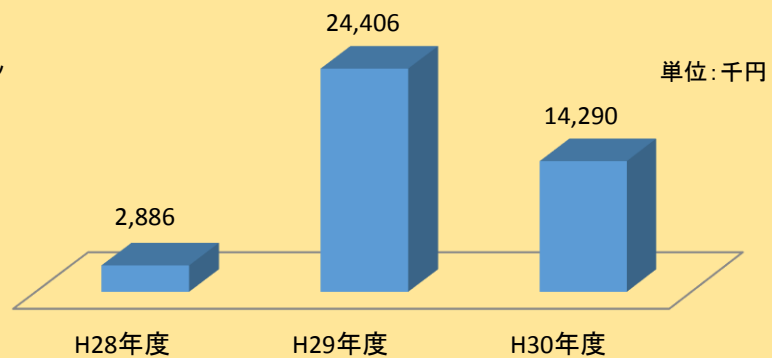


夏祭りで日田産の農産物を販売
(H29. 8月 大分市)

取組の成果

平成30年度は、前年度に発生した台風18号により被災された当組合管内の組合員へ災害等積立金（目的積立金）を取り崩し1,429万円を支払った。

見舞金等支払額



組合員の声・期待

「未来へつなぐ食と農」

取組の概要

- ・安心・安全な県産農畜産物を、未来に向け県民（消費者）につなげるとともに、地域農業を守る。

具体的な取組の内容

農協祭、体験農園、料理教室、野菜無料配布、焼肉大会、スポーツ大会での米贈呈など、あらゆるイベントを通じて、県産農畜産物を県民（消費者）に知ってもらい、食べてもらうPR活動を展開



おにぎり作り体験中の子どもたち



JAまつり～多くの来場者で
盛り上がる会場内～



J1昇格祈願し県産米贈呈

取組の成果

農協祭は全事業部が実施し、30年度は集客数が72,000人を超えた。

組合員の声・期待

- ・農協祭は継続して実施してほしい。
- ・収穫体験農園は子供も親も毎年、楽しみにしている。